

豊田市の水辺愛護会

発行：豊田市矢作川研究所

471-0025 豊田市西町2-19

TEL: 0565-34-6860

豊田市職員会館1階 担当：吉橋



お邪魔しました！活動日訪問記 2016年6月26日(日)

1998年9月発行の豊田市矢作川研究所広報「R i o」※1に当時波岩水辺公園愛護会の会長だった今井利一さんが寄せてくださった文章があります。

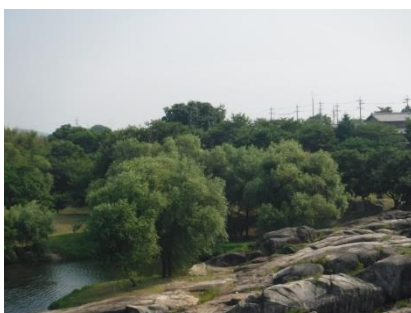
一記事からさかのぼること5年前。今井さんが、波岩水辺公園のすぐ横にある胸形神社で「見知らぬおばあさん」から声をかけられたそうです。「この川の付近に親子のお地藏さんがあるはずだが知られないか」と。「川の付近を見れば竹・雑

木・草がものすごく生い茂っていたが、お地藏さんを探し出そうと仲間と悪戦苦闘。知らぬ間にたどり着いた川岸で休んでいると、今井さんの心に昔の風景が甦りました。「この辺でよく友と釣りや水泳をして遊んだ」「堤防から見る矢作川はそれはそれは自然で美しいながめ」だったと。そして「この中洲一帯を整備したら素晴らしい公園になるだろうと仲間と話していると」、なんと、対岸の古岸水辺公園愛護会のお

一人が偶然舟で近づいてきたのだそうです。そこで「荒れ放題」になっている現状を一緒に憂い、なにかできることはないかという話に。そうして立ち上がったのが波岩水辺公園愛護会なのだ、ということでした。なんともおとぎ話のようです。

*

それから23年後の6月の日曜、朝8時。波岩水辺公園は矢作川にせり出す大きな岩盤と、対照的に柔らかな曲線を描く草の緑、濃い緑の



波岩水辺公園 (平戸橋からの眺め)



波岩水辺公園



柄にはそれぞれ名札がついている



木々が独特の景観となって気持ちいい場所になっています。ここがうっそうとした竹やぶだったとは…。

胸形神社のすぐそばにはお揃いの青い帽子を被り、グレーのシャツを着た人々が和気あいあいと草刈り機の準備をしています。帽子にもシャツにも「水辺愛護会」の字が。今日は波岩水辺公園愛護会、石倉水辺公園愛護会の活動日なのです。

波岩水辺公園愛護会（以下「波岩」）の深津末男会長（77歳・S14生）と石倉水辺公園愛護会（以下「石倉」）の今井忠良会長（73歳・S18生）は「今日はどこをやるか」…と思案中。「エリアが広すぎてね」。波岩は23,500㎡、石倉は9,000㎡のエリアに対し、会員はそれぞれ13人と12人と少数です。

朝の挨拶後、話し合っただけで今回は石倉エリアを行うことになりました。集合写真を撮影し、軽トラに草刈り機を載せて送り出し、会員は歩いて約500m移動します。途中、北バイパスの工事エリアも通り抜けます。もともと畑があったところですが、工事に伴い畑がなくなったので、

竣工後はここも活動エリアになりそうとのこと。そもそもボランティア活動であってできる範囲で、という前提はありますが、今より活動エリアが増えると思うとねえ…と会員の表情が少し曇ります。

散策路を抜けて、石倉水辺公園まで来ました。この気持ちの良い原っぱも、やはり以前は竹やぶだったそうです。愛護会活動のお蔭で今は広々としており、とうとうと流れる矢作川を一望でき、市民が散歩をしたり、グループで集まるのにとてもよい場所になっています。

石倉水辺公園愛護会の記事も「R10」※2に掲載されていました。現会長（当時副会長）、今井忠良さんの寄稿です。

一愛護会は1997年に市が竹藪を切り開き、散策道を新設したことをきっかけに発足。「石倉」の名の由来は、エリア内にある護岸設備（石垣）から決まりました。タケノコが無数に生えるのでその頭を伐ること、散策路が狭くて車が入らないため人力で竹を運び出さなくて

はいけないこと、それが重労働であることなどがつづられていて「“こんなにえらくてはかなわん。やめたい”と冗談に言う人も」と。また、問題として会員が増えないことが挙げられています。これは現在も続く、そして他の愛護会も抱えている大きな問題です。一般的な定年も延び、入会してもらいづらくなりました。若い世代の入会、ボランティアの手助けが求められています。

さあ作業開始です。会員はそれぞれ草刈り機を肩にかけて自由に散らばりました。エンジン音が大きく響いています。会員は草刈り機を右、左と円弧を描いて大きく振り、一步一步進みながら草を刈っていきます。歩を進めるたび、人が入ることのできる空間が広がっていきます。

看板を設置している会員もいます。「STOP！ゴミの不法投棄」の看板です。「効果はないだろうなあ…」苦笑いしつつ、杭を地面に打ち付けます。

この頃になると、会員はもう汗びっしょりです。防護用のメガネを外



自由に散らばって活動



木の下で休憩中



斜面や川岸の草も刈る

※2.「R i o」No.7 「愛護会活動をはじめて」1998.11

＜波岩水辺公園愛護会＞

結成…1995（平成7）年1月
 会長…深津末男氏 会員 13人
 （2015（平成27）年10月現在）
 活動日…第2第4日曜
 活動地…平戸橋上流 100m～
 下流 300m地点
 活動地面積：約 23,500㎡



＜石倉水辺公園愛護会＞

結成…1998（平成10）年4月
 会長…今井忠良氏 会員 12人
 （2015（平成27）年10月現在）
 活動日…第2第4日曜
 活動地…波岩公園下流～
 約 450m下流まで。
 活動地面積：約 9,000㎡

し、タオルで汗をぬぐいます。

草刈り機の燃料補給を兼ねての休憩時間になりました。お茶が配られ、一息つきます。両愛護会とも会員は全員 60 歳以上。70 代が主力であり、80 代はあわせて 3 人（最高齢 89 歳）いらっしゃいます。「歳とってみんなに迷惑かけちゃいかんで俺もそろそろ引退せな…」という声があがりましたが「まあまあ」と別の声が打消しました。大きな木陰が心地よく、笑い声も聞こえます。

*

石倉の水辺は中洲と岸の間が浅く、比較的 safely に遊べるため、度々イベントが行われてきました。両愛護会は「川会議」の構成団体の一員として、2001 年からアマゴやマスの魚釣り大会、2002 年からは川を堰き止めて魚をとる「かいぼり大会」などの開催に関わり、毎回 100 人～200 人、多い時には 300 人近くも参加者が集まっています。テントを張って子どもたちに記念品を渡したり、草も事前に川岸まで刈り込んでいました。こうした会は 3 年ほど前から開かれていません。今も



かいぼり大会 (RIO No. 67 (2003.4) より)

時々、どこかの団体が勢いで賑やかに遊んではいりますが愛護会としての関わりはありません。

再び子ども向けのイベントをすると愛護会活動にも変化が出て、子どもたちも我々も楽しいだろうなあ、地元の子もたちとも触れ合えたらいいがなかなか…と今井会長はおっしゃいます。

*

休憩を終えて、もうひと踏ん張り。上流に向かって草刈りを進めていきます。急な斜面では足元に気を配っての作業が続きますがこうした場所では高齢の会員が無理をしないように会員同士気配りをしているとのこと。

竹林や川岸では、まだ皮をかぶっている新しい竹がによきによきと伸びています。人の手が入らなければまた竹林が密生してしまうことは明らかです。これまでの活動のおかげで、人が入ることのできる空間が保たれ続けているのです。ただ、活動エリアを将来どのように整備していくのかについては会の中でも意見が分かれるそうです。竹やぶ



新しい竹が伸びている

を伐るのか、残すのか、そもそも、好きなようにしていいものかどうか…。頭を悩ませるところです。

*

波岩水辺公園に戻ってきました。釣り人やバーベキューをする人などがいます。ほほえましい光景ですが心無い人たちはごみを残していきます。会員はごみ拾いもしながら朝の集合場所に戻ります。

最後は器具のお手入れ。コンプレッサーも使ってきれいにして倉庫にしまい、作業は終了です。

*

後日、両会長にやりがいや楽しみについて伺いました。

波岩の深津会長は「地域みんなが寄り集まれるような場所をきっちり守っていければいい。一人でも多くの方が公園に遊びに来てくれれば」。「活動は結構楽しいよ。みんなざっくばらん。」石倉の今井会長は、「きれいになれば気持ちも嬉しいよ。地元の人にも喜ばれる。」と笑顔で語って下さいました。

(豊田市矢作川研究所 吉橋久美子)

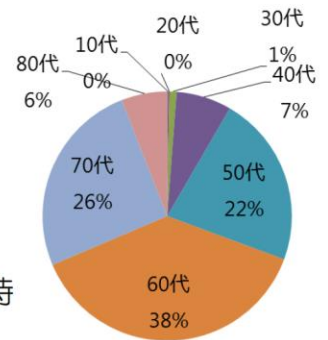


解散後も楽しく情報交換

豊田市の水辺愛護会について

自治区の有志で組織（原則1自治区1団体）。市に指定された範囲内において活動を行う。

- ・19団体、656人。（毎年登録）
- ・一団体12人～113人（平均34.5人）
- ・男性86%、女性14%（以上、2015年10月現在）
- ・活動延べ人数：4,570人／年（2014年度・会員656人）



活動頻度：月1～2回程度 土曜日又は日曜日の午前中

活動内容：河畔の竹木の間伐、草刈り、ゴミひろい、適切な維持管理についての知識向上積極的な活動人員の確保、など

面積（上流5団体除く14団体）：200,200㎡（平均14,300㎡）



活動の成果

- ・「ながめ」が良かった
（川面を見られるようになった。河畔林が見通せるようになった。対岸へのながめ、対岸からのながめがよくなった。）
- ・川までたどり着けるようになった
- ・人と人とのつながりが昔のように強まった
- ・ふるさとに自信が持てるようになった 等

活動の課題

- ・会の継続性への不安（高齢化と人手不足）
- ・目標・将来像・方向性を考える場が少ない
- ・作業のマンネリ化で「やる気のもと」がない
- ・河畔林の恵みという意味の「見返り」がない
- ・愛護活動は生物の生息環境から見て適正か
- ・地域住民・市民の関心が低い 等



発行：豊田市矢作川研究所
〒471-0025
豊田市西町2-19
豊田市職員会館1階
電話 0565-34-6860
Fax 0565-34-6028
（担当：吉橋久美子）